

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家教育事業
「青少年教育スキルアップセミナー」事業報告書

1 事業実施の背景

国立青少年教育振興機構のミッションの一つとして、機構の中期目標に「青少年教育指導者その他の青少年教育関係者に対する研修」がある。平成 25 年 1 月中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」においても、学校・家庭・地域の連携による体験活動の推進のためには、活動に関わっている社会教育関係指導者や保護者、地域の人材に、地位のニーズを踏まえた指導者の資質を高めるような指導者養成プログラムの提供が必要であることが述べられている。

以上を踏まえ、当交流の家では、北海道において展開してきた「体験の風をおこそう」運動をさらに推し進めるため、昨年度に引き続き本事業を 4 月に開催することにより、道内の市町村教育委員会や青少年教育施設において新任として配置された職員などを主対象として、北海道の青少年教育に関する現状と課題に関する理解と指導者としてのスキルアップを図るため計画したものである。

なお、今年度は、学校教育との連携及び読書活動との関連を踏まえた事業展開を図るため、北海道教育委員会及び関係機関との連携により事業展開を行うこととした。

また、機構においては地域における体験活動の格差を少なくするべく「体験活動推進員」の養成を進めているところであり、当交流の家では、平成 27 年度から北海道内市町村・教育委員会と連携し、養成の取組を進めてきたところであり、今回の事業も体験活動推進員の養成事業として位置付けて計画した。

2 事業趣旨

- (1) 青少年教育担当職員に求められる資質・能力を高める。
- (2) 青少年の現状と課題、青少年教育施設の意義と役割などについて理解を深める。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、上川管内教育委員会連合会、美瑛町、美瑛町教育委員会

5 事業概要

- ・ 期日 平成 28 年 4 月 23 日（土）～24 日（日）（1 泊 2 日）
- ・ 会場 国立大雪青少年交流の家
- ・ 対象 国公立・財団等の青少年教育施設職員 青少年教育に関わる指導員やリーダー等
都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18 歳以上）
- ・ 定員 20 名
- ・ 講師 北海道教育庁学校教育局義務教育課指導主事 田口 範人 氏
北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹 中田 和彦 氏
釧路町教育委員会社会教育課社会教育係長 貴志 淳一 氏
知内町教育委員会社会教育主事 上野 英孝 氏
北海道立図書館利用サービス部長 伊藤 信彦 氏
国立大雪青少年交流の家 所長 阿部 豊
国立大雪青少年交流の家 次長 穴澤 忠弘
国立大雪青少年交流の家 事業推進室長 秋山 洋

6 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 参加者数における道・市町村社会教育関係者数
- (2) 参加者の満足度
- (3) 体験活動推進員登録者数

7 広報

参加の主対象者としている、各教育関係機関及び青少年教育施設では人事異動直後の開催となることもあり、年度前の2月より、北海道教育委員会を通じた早めの情報提供・事業の広報を行うことで参加者の確保に努めた。結果として、意欲の高い人材及び参加者数を確保することができた。

8 参加者人員・類型

参加者 27名（定員比 135%）

内訳：青少年教育施設職員16名（国立6名，道立9名，市立1名），道社会教育関係職員2名，市町村社会教育関係職員5名，教員1名，大学生1名，ボランティア2名

9 事業日程・内容

(1) 日程

		1230	1245	1300	1400	1415	1545	1600	1730	1900	2200
4/23 (土)		受付	開 会 式	①講義「青少年の現状と課題」	休 憩	②講義「学校教育における体験活動の実際」	休 憩	③講義・演習「体験活動とおもしろい人間関係づくり」	夕 食 入 浴	情 報 交 換 会	就 寝
		7:15	7:30	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30			
4/24 (日)	つ ど い 朝 食	④説明「体験活動と生きる力」	⑤事例研究「体験活動の意義と展開」	昼 食	⑥講義・演習「子供理解と危険予知」	閉 会 式					

(2) 概要・運営のポイント

今年度は、「学校教育との連携」及び「読書活動との関連」にポイントを置いた科目の設定、並びに北海道における青少年教育の現状と課題について学びを深めるよう科目の設定を行った。

また、体験活動推進員養成事業としての位置付けもあることから、必要科目・時間数の確保も行った。

(3) 各プログラム内容

①講義「青少年の現状と課題」(60分)

【講師：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

開講式の後、現代の青少年（特に北海道における青少年）の学力・体力等の現状や課題等について、全国学力・学習状況等調査のデータや、国立青少年教育振興機構の調査結果を元に解説があり、参加者は改めて北海道に住む青少年を取り巻く「時代性」「地域性」及び「体験活動」の状況について学んだ。



②講義「学校教育における体験活動の実際」(90分)

【講師：北海道教育庁学校教育局義務教育課指導主事 田口範人 氏】

学校教育における「体験活動」の制度上の位置付けや、北海道各地域における学校の教育課程上における特徴のある取組の事例について紹介があり、参加者は、北海道の地域性を生かした学校教育と地域の連携の事例、体験活動の取組の実情について学び、今後、実際に各地域での体験活動の展開に示唆を得た。



③講義・演習「体験活動をととした望ましい人間関係づくり」(90分)

【講師 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹 中田和彦 氏】

講義前段では、道立青少年教育施設等における体験活動の取組例の紹介、北海道の教育施策の方向性について説明の後、体験活動の必要性、重要性についてグループワークにより確認しあった。その後、演習として体験活動の運営上必要となる、望ましい人間関係づくりの手法等について、それぞれの対象や場面・目的に照らし合わせた解説を聞きながら、事業参加者が実践、体感し学ぶことができた。



④説明「体験活動と生きる力」(90分)

【講師 国立大雪青少年交流の家次長 穴澤忠弘】

国における体験活動普及啓発の動向及び国立青少年教育振興機構における調査結果等を基に詳細な解説があり、参加者は改めて青少年教育における体験活動の重要性について理解した。

⑤事例研究「体験活動の意義と展開」(90分)

【事例発表者】

- ・「まちぐるみでの体験活動の推進」
釧路町教育委員会社会教育課社会教育係長 貴志淳一 氏
- ・「スポーツを中心とした体験活動の推進」
知内町教育委員会社会教育主事 上野英孝 氏
- ・「読書活動の推進」
北海道立図書館利用サービス部長 伊藤信彦 氏
- ・コーディネーター 国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊



北海道における青少年教育、体験活動の展開の実例についてゲストスピーカーより、取組の背景・目的・成果と課題について発表があり、質疑応答における意見交換を通して、学校・家庭・地域と社会教育の連携による体験活動の意義と展開について学び、参加者自身の地域におけるこれからの青少年教育の展開に具体的な示唆を受けた。



⑥講義・演習「子供理解と危険予知」(90分)

【講師 国立大雪青少年交流の家事業推進室長 秋山 洋】

青少年教育、自然体験活動の運営における、対象者としての参加者理解及びリスクマネジメントの基礎・基本について、講義及びKYTトレーニング等を通して学びを

深めるとともに、グループワークにより、参加者自身の体験事例における対応を共有することにより、より実践的な事例として捉えることができ、今後の活動の参考とすることができた。

9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 25 92.6%
- ・やや満足 2 7.4%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は100%となった。

(参加者の声)

- 初参加でもわかりやすかったです。
- 体験活動の基礎を学ぶ機会は少ないので非常に有意義でした。
- 講義と演習のバランスが取れていてよい。
- 様々な立場の話が聞けて良かった。

(2) プログラム

- ・満足 24 88.9%
- ・やや満足 3 11.1%

(参加者の声)

- 幅広いテーマがあってよかったです。
- 座学と実技ともに学べてよかった。
- 社会教育領域にとどまらず、多方面からの話が聞けて、大変参考になりました。
- 学校教育の現状も確認できてよかった。
- 少し座学にかたよっていた。

> 青少年教育に関する基本知識の習得を中心としたため、体を動かしてのプログラムは少ないと感じた参加者もおられた。

(3) 事業運営

- ・満足 26 96.3%
- ・やや満足 1 3.7%

(4) その他参加者の声

- 講義等からの学びもありましたが、参加者相互の交流からも多くの学びがありました。
- 各プログラムで重複しているところが多々あったので各担当者でもう少し詰めてほしいかったです。

> 北海道主催の新任社会教育主事研修の直後という日程重複があり、連続で参加することが難しい状況があったと思われる。

- 体験活動はとても良いもので重要なのは理解したが、それらを普及させたり、体感活動をしていない子供や大人たちが、どうすればいいのかを話しあったり、どう対応すればよいのかなどの「これから」を考えてほしい。教えてほしい。

> 体験活動の指導にかかわる者の永遠のテーマである。このテーマについては今後、事例研究などで取り上げていくことを検討する。

- すべての講師の方のお話にも、全て根拠があり、どれも納得できるものでした。この研修は、もっと多くの方に参加いただくべきだと感じました。ネットワークも広がり、とても有意義な2日間となりました。ありがとうございました。
- 今回の研修を通じて改めて青少年の現状や課題について考えることができました。今回学んだことは、生きる力(知・徳・体)を育むことを目的として、様々な事業を企画していきたいと思います。今回の研修を企画していただきありがとうございました。
- 社会教育等の経験が全くなく、知識を身に着けるために参加させていただきましたが、とてもわかりやすい講義でとてもためになりました。これから学んだことを生かして、様々な場面で活躍していきたいと思います。
- すごく充実した2日間でした。周りの方々からいろいろな話を聞かせていただいて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。次に大雪でボランティアをやらせていただくときは、より成長した姿を見てもらいたいので、日々努力します。本当にありがとうございました。

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

年度当初の4月に行うことで、新任社会教育関係職員を対象に、国立青少年教育施設として国や北海道の施策、各種調査によるデータなど具体的な数値を示した上で青少年教育の現状について参加者に認識させることができた。

特に学校教育・読書教育と社会教育の関連性について、北海道教育委員会義務教育課、北海道立図書館との連携・講師派遣を依頼することで、自然体験のみならず読書活動、生活体験、社会体験などによる青少年教育の可能性、関係機関の連携の重要性について、考える良い機会となった。

(2) 参加者の実際

今回の事業は、青少年教育施設の参加者がもっとも多く、27名中16名となり、早期の事業広報を行うことで、ある程度主対象とする参加者を確保できたと言えるが、道立・市町村の社会教育主事の参加を可能とすることで、北海道全域への体験活動の推進を図っていく必要がある。

なお、ボランティアとして活躍が期待される人材、自然体験活動指導者(NEAL)登録者、教員など参加者累計が多岐に渡り、各地域で活躍する参加者同士の情報交換の場となったことは良い効果を生み出したと考えられる。

<事業の指標に関する達成度>

- (1) 参加者数における道・市町村社会教育関係者数 7名 / 27名参加者のうち26%
- (2) 参加者の総合的満足度 100%
- (3) 体験活動推進員登録者数 10名登録 / 27名参加

11 事業の課題

(1) 事業の趣旨

今後の課題として、参加者が今回の事業で得た知識・技能の基礎、なにより今後の青少年教育の展開における行動力を、現場においてどのように展開・発揮されていくかを、追跡調査等で把握し、情報共有やフォローアップしていく機会やシステムを整備していく必要があるのではないかと考えられる。

その点では、本事業を社会教育の新任を対象とした知識の基礎編としてとらえ、次のステップアップとして、秋以降の「体験活動指導者セミナー」「自然体験活動指導者養成研修」など実技・演習を中心とした事業との連続性・関連性を持たせることも検討し

ていきたいと考える。

(2) 広報等（主ターゲット層の参加者の確保）

北海道新任社会教育主事研修の実施時期と開催日が近くなったことで、同参加者層の参加が少なくなったことは反省点である。公務出張として派遣する側の市町村としては、連続日程で出張させることは厳しいとの声も聞いた。来年度からはさらに北海道教育委員会との事業実施日程の調整を早めに行う必要があると考える。

(3) 事業プログラムの展開

参加者は経験値の差があり、それぞれのニーズに対応できるプログラムをどのように工夫していくかが今後の課題である。例えば、青少年教育の実際・国の施策・調査結果等の解説について、時間を多く確保していたが、参加者アンケートでも要望があったように、参加者同士の情報交換や体験活動における実技・実習の時間を確保することで、より現場にて実践的な知識を得させることも今後は検討していく必要があると考える。

